No.1　古代オリエント・エジプトA

3000　2700　2500　2000　20　19　18　17　16　1900　1800　1700　1600

メソポタミア

・セム語系
や
・印欧語系
・複雑な歴史

ギルガメシュ叙事詩
ノアの洪水伝説の原型

3500 BC頃
メソポタミア
南部
・人口増加
⇩
3000 BC頃
・都市の発展

2700 BC

シュメール人
都市国家を建設
（**ウル**　**ウルク**等）
・**神権政治**
ジッグラト
（聖塔）
→階級社会

前24C

アッカド人（セム語系）
▲**サルゴン1世**
メソポタミア初の統一国家を建設

ハンムラビ法典
・**復讐法**
「**目には目を…**」
・身分によって
刑罰が違う

前18C

▲**ハンムラビ王**
・全メソポタミアを
支配
・運河建設
（治水・灌漑）

カッシート
ザグロス山脈から
バビロニアに侵入

前16C

アムル人
（セム語系）

バビロン第一王朝
（古バビロニア王国）

1595頃

前16C

ヒッタイト
（印欧語系）
鉄製武器の使用
前17C 中頃
アナトリア に建国
（現トルコ）

パレスチナ　シリア

・セム語系の人々
・肥沃な三日月地帯で
小麦、オリーブ栽培
・地中海貿易

シリアから

シリア
前16C

エジプト

前3000頃

ノモス（県）が形成される
行政単位

ファラオによる統一国家
（王）

▲**クフ王**

古　王　国
（◎**メンフィス**）
ナイル川下流
（最大の**ピラミッド**）

中　王　国
（◎**テーベ**）
ナイル川　中・下流域

ナイル中流

遊牧民
ヒクソス
進入
第15,16王朝

メソポタミア文明

ティグリス・ユーフラテス流域

・**楔形文字**　　・**６０進法**
・**太陰暦**　（月の運行による暦）
→現在 イスラム世界で使用
・**多神教**　※支配民族が代わると
信仰する最高神も代わる。

※天文・暦・数学・農学などの実学が発達

ギリシャ

欧州初の青銅器文明

エーゲ文明

前20C　東地中海

クレタ文明　（民族不詳）
海洋性で開放的な宮殿建築、
壁画などが特徴。城壁がない
クノッソス宮殿　線文字A
発掘　by▲**エヴァンズ**（英）

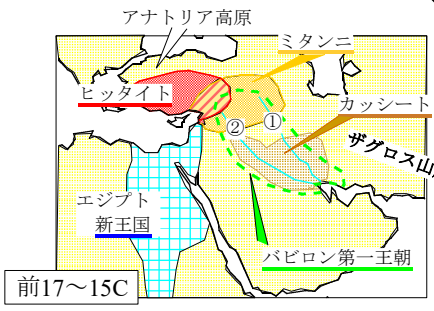
前16C
ギリシャ本土

エジプト文明

・太陽神**ラー**を信仰（多神教の中の主神）
・**ミイラ**、『**死者の書**』　←死後の世界
・**アモン**（テーベ守護神）信仰（中王国）
→新王国時代　**アモン＝ラー** 信仰へ
・**ヒエログリフ（神聖文字）**→碑文、石棺
デモティック（民用文字）→**パピルス**
・**測地術**　→　ギリシャ幾何学へ影響
・**太陽暦**　→　ローマ・ユリウス暦へ
・ナイル川の治水　→　国家の成立へ

「エジプトはナイルのたまもの」　（by▲ヘロドトス）

ロゼッタストーン
▲**シャンポリオン**
（仏）が解読



①ティグリス川
②ユーフラテス川

(C) ARAKI, Shin-ichi

15　14　13　12　11　10　9　8　7

1500　1400　1300　1200　1100　1000　900　800　700　→No.2A

四王国時代

南メソポタミア

カッシート（バビロン第３王朝）

前7C前半　前612滅

メソポタミア統一

重税と圧政

服属民族の離反

滅亡

メディア

リディア

新バビロニア

エジプト

アッシリア（セム語系）

◎ニネヴェ

鉄製武器

戦車・騎兵隊

専制君主

駅伝制

ミタンニ王国

北メソポタミア

ミタンニに服属

前1500頃

ヘブライ人定住

前15C

カナーン人交易で活躍

移住

前13C

海の民

前13C

・**ヘブライ人**（セム語系）

出エジプト（▲**モーセ**）

▲**ダヴィデ**　▲**ソロモン**

イスラエル王国　前722

ユダ王国

◎**イェルサレム**

アッシリア新バビロニアアケメネス朝などの公用語になったとさ

アラム語（国際商業語 → 各国の公用語へ）

前13C

（セム語系）

・**アラム人**→◎**ダマスクス**（中継貿易）：**アラム文字** ⇨ ヘブライ文字、アラビア文字

ソグド文字⇨ウイグル文字 モンゴル文字 満州文字 etc

東へ伝播

・**フェニキア人**→◎**シドン**、**ティルス**（地中海貿易）

フェニキア文字→アルファベットの起源

カルタゴ建設

No.8B

前14C

新　王　国

（◎**テーベ**）

▲**アメンホテプ４世**

（◎**テル＝エル＝アマルナ**）

（◎メンフィス）

アマルナ美術

エジプト＋シリア地域

神官の政治介入を避けるためアトン信仰（一神教）を強制。旧弊にとらわれない写実的なアマルナ美術が誕生した。王の死後、神官たちが復権しエジプトは多神教に回帰した。

前667

アッシリア侵入

メロエ文字

製鉄・商業

ナイル川上流

エチオピア

前920頃

クシュ王国

◎**メロエ**

最古の黒人王国 → 4C **アクスム王国**に滅ぼされる

→No.9B地図

クレタ島やトロイアに進出

前８世紀

・**アクロポリス**（城山）を中心に　**集住**が始まる。

（シノイキスモス）

⇨ **ポリスの発生**

①ポリスの発展で社会が安定 → 暗黒時代は終了

②人口増加、土地不足から海外に**植民市**の建設が進む

③結果→交易活動活が発化し文字アルファベットの使用が促進された。　→No.2A

約４００年間

暗　黒　時　代

（史料に乏しい期間）

鉄器時代へ移行

ミケーネ文明　アカイア人（ギリシア系）

戦闘的、専制的な小王国（**貢納王政**）

◎**ミケーネ**、**ティリンス**、ピュロス、トロイア

発掘 by **シュリーマン**（独）

線文字B（解読by ▲ヴェントリス：英）

前1200頃滅

人口減少・人口移動 → ・**イオニア人**　・**アイオリス人**　・**ドーリア人**

・**ヘレネス**（ギリシャ人）

VS

・**バルバロイ**（異民族）

・デルフォイの神託

・**オリンピアの祭典**

ポリスの社会

・**アクロポリス** →砦、神殿

・**アゴラ**（広場）→市場・集会

・**クレーロス**（持ち分地）

・市民（貴族＋平民）

・奴隷（借財、戦争捕虜）

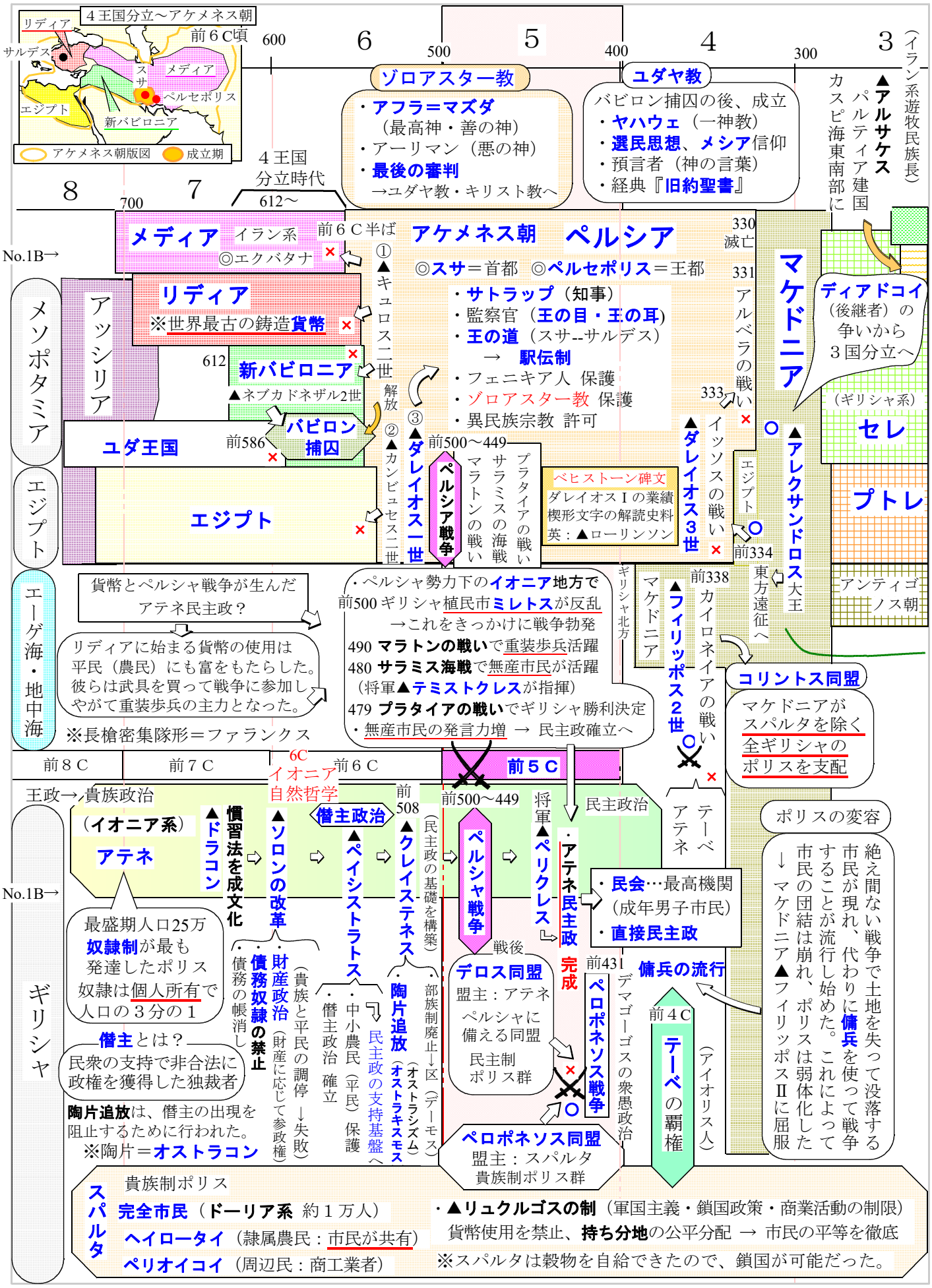
ローマ　イタリア半島

前1000頃

古代イタリア人イタリア半島を南下定住 ⇨ ラティウム地方の一派（ラテン人の由来）が**ティベル川**の河畔に都市国家**ローマを建設** ⇨ 前7C エリトリア人 全盛 一時、ローマを支配

→No.3A下

(C) ARAKI, Shin-ichi


4王国分立～アケメネス朝
リディア
サルデス
前6C頃
スサ
メディア
ペルセポリス
エジプト
新バビロニア
アケメネス朝版図
成立期
600
6
500
5
400
4
300
3
8
7
700
4王国
分立時代
612～
ゾロアスター教
・アフラ＝マズダ
（最高神・善の神）
・アーリマン（悪の神）
・最後の審判
→ユダヤ教・キリスト教へ
ユダヤ教
バビロン捕囚の後、成立
・ヤハウェ（一神教）
・選民思想、メシア信仰
・預言者（神の言葉）
・経典『旧約聖書』
▲アルサケス
パルティア建国
カスピ海東南部に
（イラン系遊牧民族長）
メディア
イラン系
前6C半ば
◎エクバタナ
アケメネス朝　ペルシア
330
滅亡
331
アルベラの戦い
◎スサ＝首都　◎ペルセポリス＝王都
・サトラップ（知事）
・監察官（王の目・王の耳）
・王の道（スサ--サルデス）
→　駅伝制
・フェニキア人　保護
・ゾロアスター教　保護
・異民族宗教　許可
マケドニア
ディアドコイ
（後継者）の
争いから
3国分立へ
No.1B→
メソポタミア
アッシリア
リディア
※世界最古の鋳造貨幣
①▲キュロス二世
解放
612
新バビロニア
▲ネブカドネザル2世
バビロン
捕囚
ユダ王国
前586
②▲カンビュセス二世
③▲ダレイオス一世
前500～449
ペルシア戦争
サラミスの海戦
マラトンの戦い
プラタイアの戦い
ベヒストーン碑文
ダレイオスⅠの業績
楔形文字の解読史料
英：▲ローリンソン
333
イッソスの戦い
▲ダレイオス3世
エジプト
前334
東方遠征へ
▲アレクサンドロス大王
（ギリシャ系）
セレ
プトレ
アンティゴノス朝
エジプト
エジプト
エーゲ海・地中海
貨幣とペルシャ戦争が生んだ
アテネ民主政？
リディアに始まる貨幣の使用は
平民（農民）にも富をもたらした。
彼らは武具を買って戦争に参加し
やがて重装歩兵の主力となった。
※長槍密集隊形＝ファランクス
・ペルシャ勢力下のイオニア地方で
前500 ギリシャ植民市ミレトスが反乱
→これをきっかけに戦争勃発
490 マラトンの戦いで重装歩兵活躍
480 サラミス海戦で無産市民が活躍
（将軍▲テミストクレスが指揮）
479 プラタイアの戦いでギリシャ勝利決定
・無産市民の発言力増 → 民主政確立へ
ギリシャ北方
マケドニア
▲フィリッポス2世
前338
カイロネイアの戦い
コリントス同盟
マケドニアが
スパルタを除く
全ギリシャの
ポリスを支配
前8C
前7C
6C
イオニア
自然哲学
前6C
前5C
王政→貴族政治
（イオニア系）
アテネ
▲ドラコン
慣習法を成文化
▲ソロンの改革
・債務奴隷の禁止
・財産政治（財産に応じて参政権）
（貴族と平民の調停 →失敗）
僭主政治
▲ペイシストラトス
・僭主政治 確立
・中小農民（平民）保護
前508
▲クレイステネス
・陶片追放（オストラキスモス）
（オストラシズム）
民主政の支持基盤へ
（民主政の基礎を構築）
・部族制廃止→区（デーモス）
前500～449
ペルシャ戦争
戦後
デロス同盟
盟主：アテネ
ペルシャに
備える同盟
民主制
ポリス群
将軍▲ペリクレス
・アテネ民主政
完成
民主政治
・民会…最高機関
（成年男子市民）
・直接民主政
テーベ
アテネ
前431
ペロポネソス戦争
デマゴーゴスの衆愚政治
ペロポネソス同盟
盟主：スパルタ
貴族制ポリス群
傭兵の流行
前4C
テーベの覇権
（アイオリス人）
ポリスの変容
絶え間ない戦争で土地を失って没落する
市民が現れ、代わりに傭兵を使って戦争
することが流行し始めた。これによって
市民の団結は崩れ、ポリスは弱体化した
↓
マケドニア▲フィリッポスⅡに屈服
No.1B→
ギリシャ
最盛期人口25万
奴隷制が最も
発達したポリス
奴隷は個人所有で
人口の3分の1
僭主とは？
民衆の支持で非合法に
政権を獲得した独裁者
陶片追放は、僭主の出現を
阻止するために行われた。
※陶片＝オストラコン
スパルタ
貴族制ポリス
完全市民（ドーリア系 約1万人）
ヘイロータイ（隷属農民：市民が共有）
ペリオイコイ（周辺民：商工業者）
・▲リュクルゴスの制（軍国主義・鎖国政策・商業活動の制限）
貨幣使用を禁止、持ち分地の公平分配 → 市民の平等を徹底
※スパルタは穀物を自給できたので、鎖国が可能だった。

200　2　100　1　1　100　2　200　3　300　4

マニ教
3C▲マニが創始
ゾロ・キリ・仏の三宗教を融合
北アフリカ、中央アジア、唐へ伝播
キ教にも影響、ササン朝では異端

中央アジア
アム川上流

インド
クシャナ朝
インダス川
3C
→No.8A
→No.9A

バクトリア
（ギリシャ系）
前2C半
カスピ海東南部
メソポタミア併合
パルティア　（◎クテシフォン：チグリス川東岸）
（イラン系遊牧民）　東西交易で繁栄
（中国名：安息）

①▲アルダシール一世
ササン朝ペルシア
（◎クテシフォン）
農業国
ゾロアスター教→国教
②▲**シャープール１世**
全盛
6C▲ホスロー一世

ウコス朝　シリア

マイオス朝　エジプト
◎**アレクサンドリア**
（ヘレニズムの中心）
マケドニア
前30

ローマ帝国
ローマ皇帝
▲ウァレリアヌス
捕虜になる

ヘレニズム時代（約300年）

コイネー：ヘレニズム世界の
共通語（ギリシャ語系）

ヘレニズム文化

ポリスの枠を越えた世界市民主義（**コスモポリタニズム**）

哲学
- **エピクロス派**　（精神的快楽を説く）
- **ストア派**（禁欲を重視）▲**ゼノン**
- **ムセイオン**（**アレキサンドリア**の王立研究所）

▲**エウクレイデス**　（ユークリッド幾何学）
▲**アルキメデス**　（数学・物理学）
▲**アリスタルコス**（太陽中心説）
▲**エラトステネス**（地球の周長を計算）
彫刻　「ミロのヴィーナス」

アレクサンドリアが
ヘレニズムの中心地

ギリシャ文化

・ギリシャの宗教　多神教
→　**オリンポス12神**

神話の世界観　（前8C前後）
▲**ホメロス**『**オデュッセイア**』
『**イリアス**』
▲**ヘシオドス**　『**労働と日々**』

イオニア**自然哲学**（前6C頃）
▲**タレス**　万物の源泉は水！哲学の父
▲**ピタゴラス**　万物の根源は"数"
▲**デモクリトス**　原子論

悲劇・喜劇の鑑賞（前5C頃）
三大悲劇詩人
▲**アイスキュロス**『アガメムノン』
▲**ソフォクレス**　『オイデプス王』
▲**エウリピデス**　『メディア』
▲**アリストファネス**（喜劇）『女の平和』

職業教師（**ソフィスト**）→哲学（前5～4C）
▲プロタゴラス…「人間が万物の尺度」
▲**ソクラテス**　…　無知の知
▲**プラトン**　…　イデア論　『国家論』
▲**アリストテレス**　…万学の祖
学園リュケイオン設立　「人間はポリス的動物」
（▲アレクサンドロスの家庭教師）
▲ヒッポクラテス　…　医学の祖

歴史記述の祖　（神話によらず　史料を探求）
▲**ヘロドトス**　『歴史』ペルシャ戦争
▲**トゥキディデス**　『歴史』
ペロポネソス戦争

美術・彫刻
・**パルテノン**神殿（ドーリア式）
神殿の再建監督▲**フェイディアス**
（▲ペリクレスが企画）

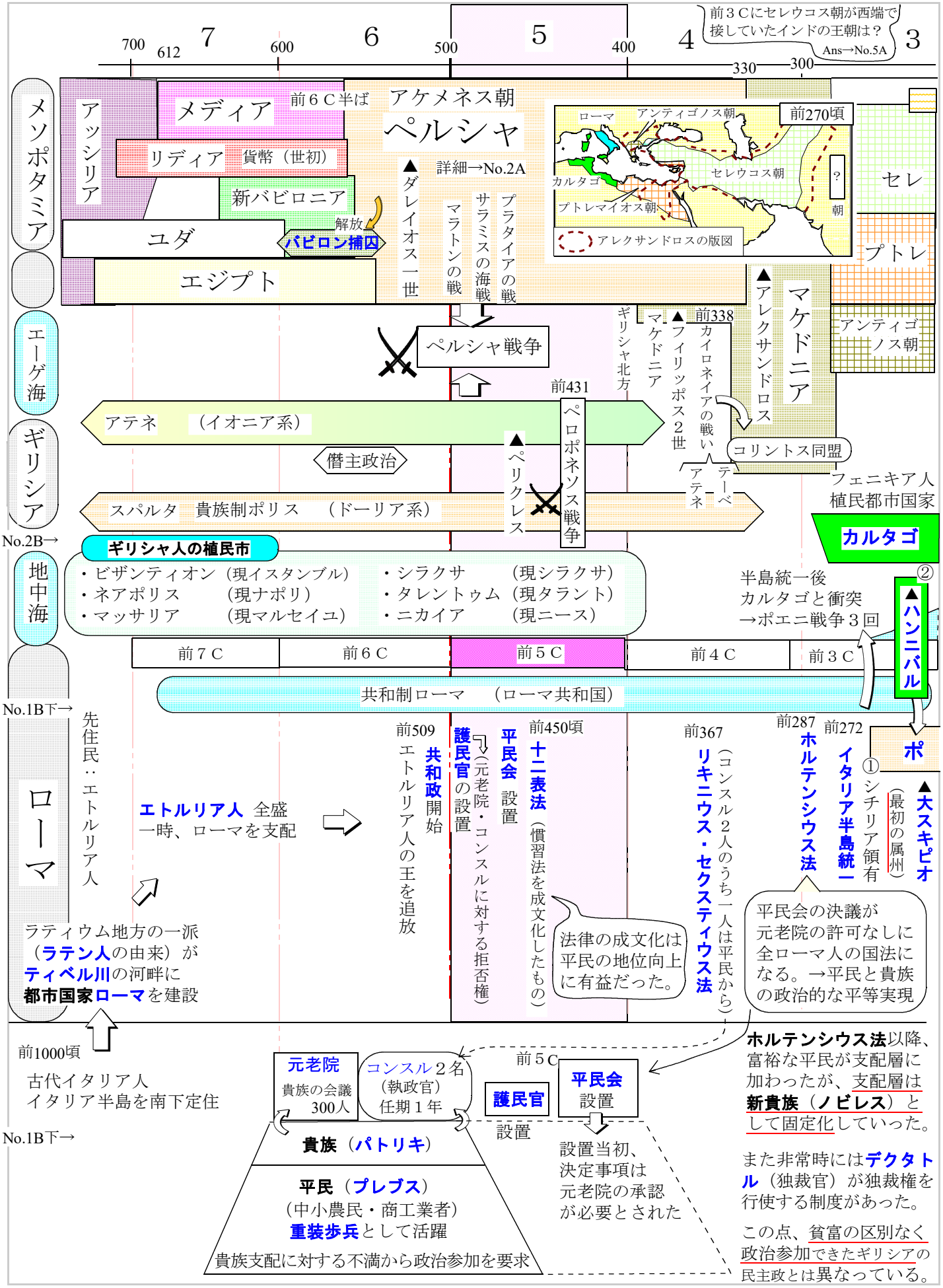
柱の３様式
・ドーリア式（力強い）
・イオニア式（優美）
・コリント式（華麗）

ササン朝文化とその伝播

イランの伝統文化と
ヘレニズムの影響を受けた文化
建築・美術・工芸の分野で秀逸
銀器、ガラス器、彩釉陶器
イスラム世界へ継承されると共に
西は　ビザンツ帝国から地中海へ
東は　隋唐から飛鳥・奈良へ伝播
・漆胡瓶　（正倉院）
・獅子狩文錦（法隆寺）
『**アヴェスター**』
（ゾロアスター教の教典）

(C) ARAKI, Shin-ichi

No.3　古代ローマA



(C) ARAKI, Shin-ichi

200　2　100　1　1　100　2　200　3　300　4

パルティア（中国名：安息）

ササン朝ペルシャ
▲シャープール１世
皇帝
▲ウァレリアヌス捕虜になる
ササン朝
→No.9A上

ウコス朝　シリア

マイオス朝　エジプト
▲クレオパトラ
前30
前31

マケドニア
前2C中頃
ローマが地中海をほぼ征服

アクティウムの海戦

ローマの属州支配
・ローマは征服した諸都市とは個別に同盟を結び、諸都市間の団結を予防。（**分割統治**）
例）市民権：植民市○、自治市△、同盟市×
・服属した住民の一部（都市の上層市民）に**ローマ市民権**を与えることで、広い領土の支配を可能にした。（市民権はその後 223 ▲カラカラ帝が帝国内の全自由民に付与）

危機の３世紀とは…
内乱（軍人皇帝の時代）や異民族の侵入（ササン朝、ゲルマン）で軍事費増大。それが都市の重税へとつながり、都市が没落。没落市民はコロヌス化した。帝国自体も分裂の危機に瀕した。
→No.4A

前２C頃～　征服戦争と社会の変化　「パンと見世物」
・従軍した中小農民が疲弊し没落→都市に流入、無産市民化
・元老院貴族は属州統治で、騎士は属州の徴税請負で富裕化
→貴族、騎士は没落市民の土地を買い集め、奴隷を使って大土地所有制（**ラティフンディア**）の農業経営
→市民の経済格差が広がり、共和政の基盤が揺らぎ始めた。
→政治家は**閥族派**と**平民派**で抗争し、内乱の1世紀となる。

３世紀以後の変化
軍制：市民戦士制 → **傭兵制**
政治：帝政 → **専制君主政**
経済：奴隷制→**コロナトゥス制**

カルタゴ
滅亡
③
前149-146

閥族派▲スラ
平民派▲マリウス

征服戦争後は奴隷の供給が減少しラティフンディアは行き詰まる。

コロナトゥス（小作制）
コロヌス（隷属的小作人）を使った大所領運営。有力者が都市を逃げ出した無産市民をコロヌスとして雇って経営。

パクス＝ロマーナの２００年間
「**ローマの平和**」

東ローマ帝国（◎コンスタンティノープル）

前２C　前１C　１C　２C　３C　４C

▲小スキピオ（孫）
内乱の１世紀
▲グラックス兄弟
前133-123
護民官として、大土地所有者の土地を没収し、無産市民に分配しようとしたが、失敗した。

帝政ローマ（ローマ帝国）
３世紀の危機

エニ戦争
③▲小スキピオ→カルタゴ滅亡
②▲ハンニバルに苦戦・大スキピオ反撃
①勝利してシチリア獲得（最初の属州）

前73
▲スパルタクスの乱（剣奴）
鎮圧
前60
第１回　**三頭政治**
▲ポンペイウス　▲クラッスス　▲カエサル（ガリア遠征）
独裁化→暗殺
前91
同盟市戦争
伊半島の同盟都市が市民権を求めて反乱
伊半島の全自由民にローマ市民権を付与

前43
第２回　**三頭政治**
▲オクタウィアヌス○　▲レピドゥス　▲アントニウス×
＝
▲クレオパトラ
アクティウムの海戦
（ギリシア西岸）

前27
元首政（プリンキパトゥス）→事実上の皇帝独裁
▲オクタウィアヌス ↑
「**アウグストゥス**」（尊厳者）の称号by元老院
プリンケプス（第一の市民）と自称
↓
実質は独裁
帝政の始まり

▲ネロ

96　**五賢帝時代**　180
ローマ全盛
▲ネルウァ帝①
▲トラヤヌス帝②→領土最大
▲ハドリアヌス帝③→内政重視
（映画「テルマエ・ロマエ」の皇帝だよ）
▲マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス⑤
▲アントニヌス＝ピウス④
⇩
経済不振
財政破綻

軍人皇帝
⇩
属州の軍団が独自に皇帝を立てて乱立
↓
帝国分裂の危機へ

212
▲カラカラ帝
⇩
帝国の全自由民にローマ市民権を付与
↓
世界帝国へ

284
▲ディオクレティアヌス帝
↓
東西に正帝・副帝
四帝分治制（テトラルキア）
帝国分裂を回避
一旦は

専制君主政
ドミナトゥス

▲コンスタンティヌス帝→**キリスト教公認**
▲テオドシウス帝
↓キリスト教を国教化
↓**東西分割**
395
▲オドアケル
476
滅亡
ゲルマン民族の侵入

西ローマ帝国（◎ローマ）
→No.4A

奴隷制　全盛

内乱の一世紀
グラックス兄弟の改革失敗から約1世紀間。この頃の軍隊は、有力者が無産市民を集めて作る私兵であった。　中でも**閥族派▲スラ**と**平民派▲マリウス**が自らの私兵を用いて争った。また、**▲スパルタクスの乱**など混乱を極めた。
この乱を鎮めたポン・クラ・カエサルの三頭政治、続く第２回の三頭政治の後**▲オクタウィアヌス**がエジプトを併合し、全地中海を平定して、内乱は終結。この後、帝政（元首政）に移行した。

専制君主政（ドミナトゥス）
▲ディオクレティアヌス帝は皇帝を神として礼拝させ、専制君主として君臨したので以降を「専制君主政」と呼ぶ。

(C) ARAKI, Shin-ichi

No.4　ローマ帝国とキリスト教A

1　100　200　300　400

1C　2C　3C　4C

帝政ローマ　（ローマ帝国）　ササン朝　ゲルマン民族

元首政（プリンキパトゥス）　専制君主政（ドミナトゥス）　375

ローマ帝国

▲オクタウィアヌス　プリンケプス（第一の市民）と自称

アウグストゥス（尊厳者）の称号

五賢帝時代

▲トラヤヌス帝 → 領土最大

▲マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス　経済不振　財政破綻

前212　軍人皇帝

▲カラカラ帝 → 帝国の全自由民にローマ市民権を付与

3世紀の危機

▲ディオクレティアヌス帝

四帝分治制（テトラルキア）

▲コンスタンティヌス帝

▲コンスタンテイヌス帝の施政

- キリスト教を公認 ← 帝国統一のため（ミラノ勅令 313）
- 軍隊増強 ← 帝国支配の安定のため
- 下層民の身分や職業を世襲化 →税収の確保 ← 財政基盤の整備
- 首都コンスタンティノープルの建設（ビザンチウムを改称）
- 官吏による専制支配体制の確立 → ポリス的な 市民の自由は失われた。

395 ▲テオドシウス帝　帝国を東西に分割

西ローマ帝国（◎ローマ）

東ローマ帝国（◎コンスタンティノープル）

No.3B→

ローマ市民権の拡大

1C　2C　3C　4C

キリスト教の迫害と国教化

64 ▲ネロ帝　迫害

キリスト教成立

▲イエス

使徒　▲パウロ　▲ペテロ

『新約聖書』（キリスト教の経典）

⇨ キ教徒は皇帝崇拝を拒否 →迫害される

迫害されながらも ローマ帝国内に広がる。

303 キリスト教　大迫害　▲ディオクレティアヌス帝

▲コンスタンティヌス帝

313 ミラノ勅令 →キリスト教 公認

325 ニケーア公会議

アタナシウス派 →正統→ 三位一体説

アリウス派 → 異端

▲ユリアヌス帝（背教者）　古来の多神教復興を企図 → 失敗

392 アタナシウス派キリスト教を 国教 とする　▲テオドシウス帝

（他の宗教は厳禁）

帝国維持のため民衆の支持を必要としたので ⇨ 公認

公認後も教義を巡る論争があった

- アタナシウス派　「キリストは神である！」
- アリウス派　「キリストは人間である！」
- ネストリウス派　「キリストの神性と人性を分離して考えよう！」

ニケーア公会議で決着を付けようぜ！

アリウス派は北方のゲルマン民族に広まった。

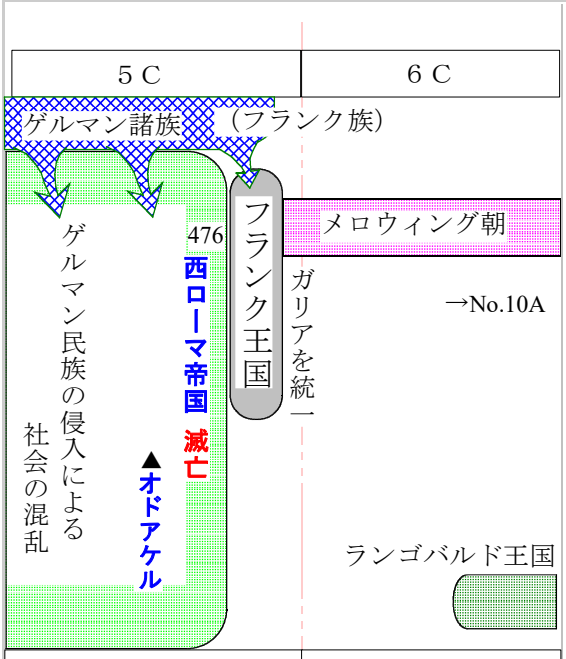
キリスト教の成立

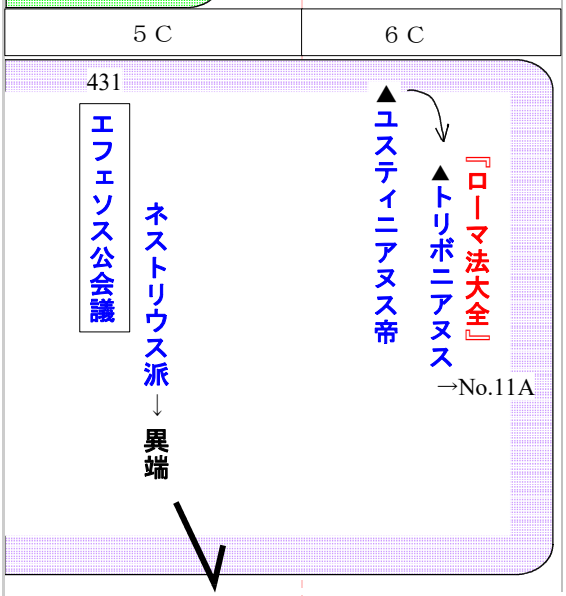
- 1Cにローマ支配下のパレスチナで▲イエスが ユダヤ教やパリサイ派を批判して、神の絶対愛と隣人愛を説いた。
- 民衆は▲イエスを**キリスト**（メシア：救世主）と崇拝。
- ▲イエスは讒訴され、総督▲**ピラト**によって処刑された。
- ▲イエスの死後、復活伝説が生まれ　**キリスト教**　成立
- ▲**ペテロ**、▲**パウロ**らの使徒や教会が伝道活動
- 3C頃までに　帝国の主に下層市民・奴隷などに広がる。
- 『**新約聖書**』が**コイネー**（ギリシャ語一種）で著される
  ※コイネー：当時ヘレニズム世界の共通語だった。

キリスト教 用語集

- 使徒　…　▲イエスが選んだ直弟子12人
- ▲ペテロ…最高位の使徒。ネロの迫害で死亡とされる。
- ▲パウロ…東方各地を伝道した「異邦人の使徒」後世の▲アウグスティヌスや宗教改革に影響
- **カタコンベ**　…　初期キリスト教時代の地下墓所
- **教父**　…　古代・中世のキリスト教の著作家たち 正統教義の確立に貢献
- 四福音書…新約聖書の中でイエスの言行を記録した部分
- **三位一体説**　…　神・イエス・聖霊は不可分とする説

(C) ARAKI, Shin-ichi





ササン朝ペルシア

7C ～8C
唐に伝わり
景教と呼ばれた。

ローマ文化 ①

・ローマ字、　ラテン語、

・**ローマ法**　…

ローマ市民に適応される**市民法**だったが
帝国支配の拡大で**万民法**へと成長した。
→　今日へも影響し、ローマの遺産とされる。
６Ｃ　『**ローマ法大全**』　▲トリボニアヌス
（▲ユスティニアヌス帝が編纂を命じる）

・ユリウス暦（by▲カエサル）…エジプト系太陽暦
前46～　　→ 現在のグレゴリウス暦へ
1582～

【土木建築】

・**コロッセウム**（円形闘技場）　・公共浴場
・**ガール水道橋**
・**軍道**　（例：**アッピア街道**）

ローマ文化 ②

文学　（ラテン文学）

▲**ウェルギリウス**『**アエネイス**』
（ローマ建国叙事詩）
▲ホラティウス　『叙情詩集』

歴史・地理

▲ポリビオス　『歴史』
（政体循環史観）
▲**リウィウス**　『**ローマ史**』
▲カエサル　『ガリア戦記』
▲**タキトゥス**　『年代記』
『**ゲルマニア**』
▲**プルタルコス**『**対比列伝**』
▲ストラボン　『地理誌』

法学

▲**トリボニアヌス**
『**ローマ法大全**』

哲学・思想

▲**キケロ**　弁論家『国家論』
▲セネカ（ストア派）『幸福論』
▲エピクテトス（ストア派）
▲マルクス・アウレリウス・
アントニヌス帝（ストア派）
『自省録』

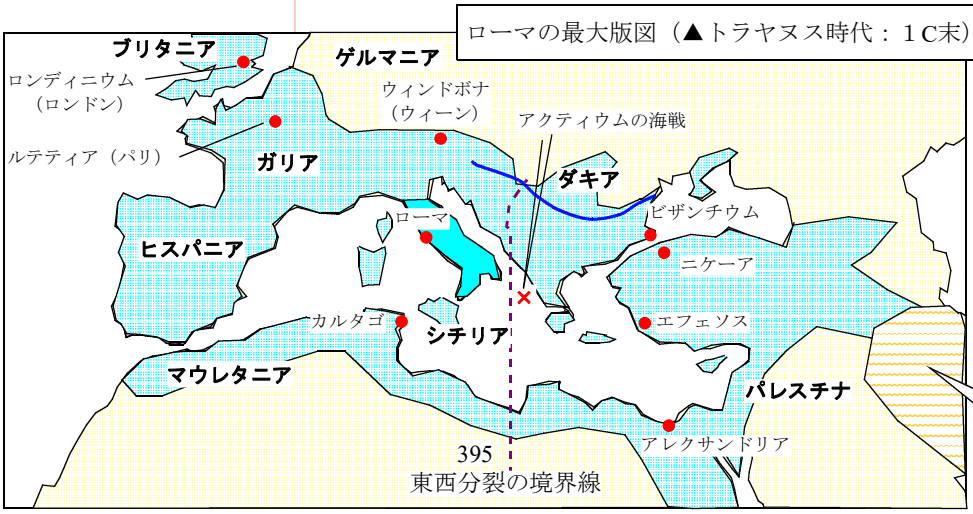
自然科学

▲**プトレマイオス**（天動説）
→イスラム世界→西欧世界
▲プリニウス　『博物誌』

キリスト教思想

・新約聖書
▲**アウグスティヌス**（教父）
『神の国（神国論』
↳（ローマ帝国を救うのは
神と教会への信仰だ！）

ローマの最大版図（▲トラヤヌス時代：１C末）



１C頃　ローマ帝国の西端で
接していたイラン系の国は？
Ans. → No.2B

(C) ARAKI, Shin-ichi

1800　1000　600　6　500　5　400　4　300　3　200

前６　前５　前４　前３

▲アレクサンドロス

バク

インドの先住民

ドラヴィダ系

中央アジアから

前1500頃

遊牧民

アーリヤ人の進入

アケメネス朝　ペルシア

（▲セレウコス1世）

ギリシャ勢力を駆逐

前2300頃

前1000頃

北インド

インダス文明

前1800頃衰退

北西インドに侵入

パンジャブ地方

ガンジス川上流域に進出

鉄製農具の使用

稲作の普及

前6C

政治経済の中心が

ガンジス中下流域へ

コーサラ国

都市国家

吸収

マガダ国

ガンジス川流域

都市国家

インダス川流域まで進出

マウリヤ朝

◎パータリプトラ

インド初の統一国家

前317

前６Ｃ　前５Ｃ　前４Ｃ　前３Ｃ

麦類の栽培

貧富差の少ない部族社会

『リグ＝ヴェーダ』

都市遺跡

・ハラッパー

・モエンジョ＝ダーロ

（煉瓦造、沐浴場、穀物倉）

インダス文字（象形文字）

定住農耕社会を形成

→ 貧富の差が発生

→ 支配階級の誕生

身分制度

ヴァルナ制

カースト制度

司祭 → バラモン → バラモン教

武士 → クシャトリア

商人（農民・牧畜民）→ ヴァイシャ

隷属民（後、農民・牧畜民も）→ シュードラ

（不可触民）

カースト集団

（ジャーティ）

職業・信仰別の結合体

前1500頃　ヴェーダ時代　前600頃

ヴェーダ：バラモン教の聖典の総称

（インド最古の文献）

『リグ＝ヴェーダ』（賛歌集）

（多神教的世界観）

仏教

▲ガウタマ＝シッダールタ

（尊称：仏陀）

ジャイナ教

▲ヴァルダマーナ

ウパニシャッド哲学

▲チャンドラグプタ

マウリヤ朝を創始

前268-232

▲アショーカ王

→ マウリヤ朝全盛

仏教に帰依↓仏典結集（第３回）

ダルマによる統治

（ダルマとは：法、社会倫理）

南インド

西南インドデカン地方

▲アショーカ王

スリランカに仏教を布教

仏教

▲ガウタマ＝シッダールタ

・輪廻転生からの解脱を説く。

・無常観。慈悲の心

・ヴァルナ制を否定

クシャトリアやヴァイシャに広がる

ジャイナ教

▲ヴァルダマーナ

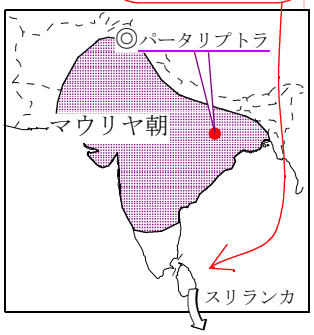
・人生は苦である

・苦行と禁欲を説く

・不殺生

・ヴァルナ制を否定

ヴァイシャに広がる



スリランカは上座部仏教の中心地となりその後ビルマタイに伝播

ウパニシャッド哲学

バラモン教の改革運動から生まれた哲学。

・従来の祭式至上主義を否定し、人間の内面を重視。**輪廻**からの解脱を説いた。**ブラフマン**（梵：神から与えられた物）と**アートマン**（自我）の一致を目指す。

この頃から、バラモン教と民間の土着宗教、仏教等が融合して、**ヒンドゥー教**が普及し始めた。詳細→No.6B

(C) ARAKI, Shin-ichi

2　100　1　1　100　2　200　3　300　4　400

ローマ帝国

ササン朝　ペルシア

ローマ　との交易

ローマから金が流入
→ 貨幣の使用
（カニシカ王とギリシャ文字が描かれた貨幣などが流通）

トリア　バクトリア地方

ギリシャ勢力　前2C

イラン系遊牧民（パルティア？）

1C　クシャーン人（イラン系）

バクトリア地方

クシャーナ朝　◎プルシャプラ

インダス川流域に建国

クシャーナ朝の支配地域は東西交易の要衝だったため ローマとの交易が盛んだった。

2C ガンジス中流域に進出

ササン朝の攻撃を受け衰退

▲法顕（東晋）

4C　→No.6A

320頃　グプタ朝

◎パータリプトラ

詳細はNo.6A

前180頃

前2C	前1C	1C	2C	3C	4C	5C

※マウリヤ朝はアショーカ王の死後、衰退

アショーカ王の勅令等を刻んだ石柱碑、磨崖碑が各地に現存

大乗仏教の誕生

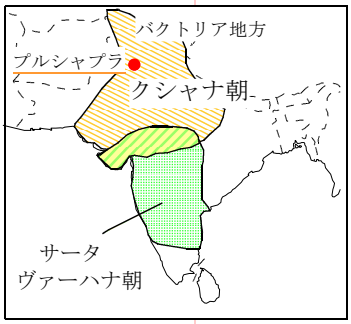
出家者の個人救済よりも一般大衆の救済を重視し、出家せずに修行を行なうことを説く**菩薩信仰**が広まった → **大乗（仏教）**

・ヘレニズムの影響で**仏像**が作られるようになる → **ガンダーラ美術**

・空（くう）の思想

▲竜樹（ナーガールジュナ）

▲カニシカ王　クシャーナ朝全盛



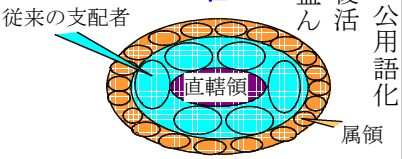
▲チャンドラグプタ1世

▲チャンドラグプタ2世　グプタ朝全盛期

※仏教・ジャイナ教が盛ん

※バラモンも影響力を復活

サンスクリット語公用語化



グプタ朝の分権統治（イメージ）

サータヴァーハナ朝　デカン地方　→No.6A

南インドの住人：
ドラヴィダ系の人々
タミル語を話す

海の道

ローマとの交易

『エリュトゥラー海案内記』（ギリシャ人の著作？）

海の道

南インドは古来から、**海の道**を通じてローマ帝国との交易が栄えた。

海の道　：　**地中海** → 紅海 → アラビア海 → **インド洋** → 東南アジア → **中国**

１Ｃ頃からはローマと交易、ローマ衰退後は東南アジアや中国と交易。

ローマの金貨、インドの綿布、東南アジアの香辛料、中国の絹・茶・陶磁器

港市国家

港町（港市）を中心に建設された国家。中継貿易や内陸物産の輸出などで栄えた。

→No.4A

東南アジア

2000年紀末　青銅器文化

前４Ｃ

ドンソン文化
青銅の**銅鼓**
ベトナム北部中心

紀元前後頃から印度、中国との交易が活発化

ベトナム中部

後漢から独立（192頃）　※ベトナム北部は10Cまで中国諸王朝が支配

後漢：日南郡　2C末　**チャムパー**（中国名：**林邑**）（**チャム人**）

メコン川下流　現カンボジア付近　→No.6A

1C末　**扶　南**（東南アジア最古の国家？）港町**オケオ**（ローマ貨幣）

（クメール人）

(C) ARAKI, Shin-ichi

No.6　インド・東南アジアA

4　400　5　500　6　600　7　700　8　800　9　900

唐

宗教に寛容だったグプタ朝

・ヒンドゥー教が社会に定着した時代
・サンスクリット語が公用語とされた時代
（↑バラモンの言葉）
・仏教、ジャイナ教も盛んな時代

7C ▲玄奘

7C後半 ▲義浄『南海寄帰内法伝』

唐からインドへ来朝
ハルシャ王の庇護下
ナーランダー僧院に学ぶ
→『大唐西域記』

▲法顕（東晋）『仏国記』

320頃

5～6C 遊牧民 エフタルの進入

北インド

グプタ朝
◎パータリプトラ
分権的な統治体制

西方交易に打撃
→ 衰退の一因

550頃

▲チャンドラグプタ 1世

▲チャンドラグプタ 2世

グプタ朝最盛期

▲ハルシャ＝ヴァルダナ（ハルシャ王）

ヴァルダナ朝

ナーランダー僧院

ハルシャ王の死後 衰退

8～10C ラージプートの抗争（ヒンドゥー諸勢力乱立）

No.5B→

この頃 支配者はヒンドゥー教徒のことが多く
社会にもヒンドゥー教が定着していった。
そのためバラモンの影響力も復活し、彼らの
言葉 サンスクリット語 が公用語となった。
しかし信仰については排他的でなく、仏教や
ジャイナ教も保護されていた。　ところが…

インド仏教の衰退

・グプタ朝衰退後、商業活動が停滞したため
仏教の支持基盤だった商人（ヴァイシャ）
からの支援が得られなくなった。

・6C半ばから仏教やジャイナ教を排撃する
バクティ運動が盛んになった。

上記のような要因で　仏教は勢いを失い
一時期 ベンガル地方の王朝がナーランダー
を中心に仏教を復興させたのを最後に、
インドにおける仏教は衰退した。

従来の支配者
直轄領
属領
グプタ朝の分権統治（イメージ）

バクティ運動

仏教・ジャイナ教を攻撃し
シバ神・ヴィシュヌ神を
崇拝する運動。歌・踊りなど
を伴う宗教告白などが特徴

南インド

インドの古典文化

『マヌの法典』
（各ヴァルナの義務、生活規範）

二大叙事詩
『マハーバーラタ』
（バーラタ族の戦記物語）
『ラーマーヤナ』
（コーサラ国ラーマ王子と妃の物語）
（サンスクリット語で書かれた叙事詩）

※インド古典文化はグプタ朝の頃　黄金期を迎えた。

・サンスクリット文学
▲カーリダーサ（宮廷詩人）
戯曲『シャクンタラー』

・十進法　ゼロの概念

・美術　：グプタ様式
ガンダーラの影響を脱し
純インド的な表情を持つ

アジャンター石窟寺院
（壁画：グプタ様式）

8C　ムスリム商人の進出

ミャンマー（エーヤワディー川）イラワジ川下流
8C ピュー

タイ・ミャンマー 7C ドヴァーラヴァティー王国（チャオプラヤ川下流）

東南アジア

No.5B→

ベトナム中部　チャムパー（林邑）（チャム人）（唐に朝貢）　9C（占城）

メコン川下流　扶　南　×

メコン川中流　6C カンボジア（唐に朝貢）（中国名：真臘（しんろう））（クメール人）　アンコール朝 9C（◎アンコール）

インド化　4～5C
インドから東南アジアに諸文化が浸透した現象
大乗仏教・インド神話・サンスクリット語・
インド建築様式など一体となって伝わった。

インド文化の例 → ワヤン：ジャワの影絵芝居
（インドの「ラーマーヤナ」「マハーバーラタ」等が題材）

7C
スマトラ島 パレンバン　シュリーヴィジャヤ王国　マレー人　スマトラ島・マレー半島
▲義浄
唐に朝貢

ジャワ島　シャイレンドラ朝　大乗仏教　ボロブドゥール（仏教寺院）

(C) ARAKI, Shin-ichi

10 1000 11 1100 12 1200 13 1300 14 15

インド・東南アジアのイスラーム化

10C末から、中央アジアのイスラーム勢力がインドへの軍事進出を開始した。（カズナ朝・ゴール朝）

北インドのイスラム政権誕生で
インド＝イスラム文化が発展
→ヒンズー教とイスラーム教の融合文化
（サンスクリット文学をペルシア語に翻訳等）

ガズナ朝　トルコ系　イスラーム国家）

▲マフムード

イラン系　イスラーム国家　**ゴール朝**

デリー＝スルタン朝　インド北半分

13C初

時代

ガズナ朝　11～12C　ゴール朝　チョーラ朝

▲アイバク（ゴール朝の将軍）（トルコ人）

奴隷王朝　◎デリー　インド初のイスラーム国家

ハルジー朝　地租の金納化

トゥグルク朝

サイイド朝

ロディー朝　→No.16A

1206　1290

※デリーは北インドのイスラーム世界の中心

ところで　**ヒンドゥー教**とは…

- **シヴァ神**、**ヴィシュヌ神**など多くの神を信仰する　多神教
- 特定の教義や聖典を持たない。
- バラモン教と民間の土着宗教、仏教等が融合して形成された。
- 生活、思考全体に関わる宗教

…だそうな

12Cの東南アジア

パガン朝　大越国　チャンパー　カンボジア　シュリーヴィジャヤ王国　ボロブドゥール

アンコール＝ワット

2C～17C　7C～14C

仏教の伝播

黄帽派　→No.15A

モンゴル　16C　敦煌　雲崗　4C　6C　ガンダーラ　チベット　竜門　ビルマ　11C　タイ　13-14C　前3C　スリランカ　アジャンター　ボロブドゥール

上座部　大乗仏教

10 11 12 13 14 15

チョーラ朝　全盛期

灌漑施設→安定した農業生産
活発な交易活動（海の道）

※南インドはドラヴィダ系の人々が住み、タミル語を話す地域

（タミル人）

- スリランカ北部を征服
- シュリーヴィジャヤ遠征
- 北宋へ商人使節　派遣

スリランカと交流
上座部仏教が普及
→No.5A下

元の武力干渉

マラッカ王国とイスラーム

- 明の後ろ盾でタイ・アユタヤから独立
- 明▲鄭和遠征の拠点→国際交易都市へ
- 15C マラッカ王がイスラームに改宗
- イスラームを旗印にタイの干渉を排除
  →これが東南アジアにイスラームが浸透する契機となった。

アチェ王国、マタラム王国（イスラーム）

（モン人）　上座部仏教 11C　**パガン朝**　イラワディ川下流　（現ミャンマー）

ベトナム北部　11C　**李朝**　**大越国**　→No.14A下　1225　**陳朝**　大越国　文字　**字喃**（チュノム）

チャムパー　インドの影響を受けた寺院

ヒンドゥー教・仏教の影響　→　12C **アンコールワット**　アンコール朝全盛

1400　アユタヤ朝　→No.15A,16A

タイ北部　1257 **スコータイ朝**　タイ族最古の王国　上座部仏教

「大乗仏教の盛んな国だ」と▲義浄が記述

スマトラ　**マラッカ王国**　アチェ王国

元　1293

ジャワ　**マジャパヒト王国**（ヒンドゥー教国）

ジャワ　イスラーム化　マタラム王国

マタラム朝（ジャワ）→**ヒンドゥー教国**

(C) ARAKI, Shin-ichi

1500　1100　前５　前４C　前３C　前

前6C　南ロシア　スキタイ　文献上最古の遊牧民

月　氏 ×　→ 大 月 氏

西域　陰山山脈　匈　奴　▲冒頓単于

諸子百家
儒家：▲孔子…「論語」…孝・仁・礼…『詩経』、『春秋』などの経典
▲孟子…性善説、▲荀子…性悪説
道家：▲老子、▲荘子…無為自然
法家：▲商鞅・▲韓非・▲李斯…法治
縦横家：▲蘇秦・▲張儀…外交策を説く
合従策　連衡策
墨家（▲墨子）　兵家（▲孫子）　陰陽家（天文暦学）

文学：『楚辞』▲屈原らの詩歌集

中国における王朝の交替を 易姓革命 という。
「天命が革まり、天子の姓が易わる」の意
（▲孟子などが易姓革命を唱えた）

長城　長城修築　前漢▲高祖は匈奴に破れ和親策を採る

前16C～前11C　渭水地域　前500　前400　前300　前200

中国　殷（商）　殷墟　甲骨文字　前11C　周　◎鎬京　犬戎　春秋時代　（東周）◎洛邑　前770　前403

戦国時代
周王朝の権威がなくなり、諸国間の統一的な秩序が崩壊していった時代。
（諸侯が自ら王と称した）

前206　秦　◎咸陽　前221　前

前5000年紀　仰韶文化　彩陶（彩文土器）　黄河中流域
前3000年紀　竜山文化　黒陶（黒色磨研土器）　黄河下流　遼東半島　長江流域　長江中下流（水田集落）

殷王朝
王都　邑　邑　邑　邑
邑に住む氏族集団が王都に住む殷王朝に従属する形の王朝
邑（城郭都市）氏族集団の集落
青銅器
神権政治

周の封建制による支配
一族・功臣、土着の首長を諸侯とし、各々に封土を与え、周王や諸侯に従う卿・大夫・士にも地位と封土を与えて分権的に統治した。
周王　諸侯:封土　諸侯:封土　諸侯:封土　卿・大夫・士　封土
宗法：親族の秩序、祭祀の仕方

覇者：春秋時代に周王の権威を借りて諸侯を率いた有力諸侯
斉の▲桓公
晋の▲文公

戦国の七雄
秦・斉・燕・楚・韓・魏・趙

秦は▲商鞅の改革で国力増加　前4C

中国統一　秦王▲政→始皇帝
・郡県制・焚書・坑儒・貨幣、度量衡の統一
南海郡設置　華南征服　広東省

半両銭　両半
秦の統一貨幣（円銭の一種）

青銅の貨幣
布銭　刀銭

前202　▲劉邦→高祖　×▲項羽　前209

陳勝・呉広の乱　▲陳勝「王侯将相いずくんぞ種あらんや」

前154　呉楚七国の乱　・郡国制（郡県制・封建制の併用）
漢王室が諸侯の領土を削減する過程で起こった反乱
乱後　集権化へ向かう

春秋・戦国時代の社会の変化

・各地に中央集権的な国家が分立し、抗争した。
・諸国の交流が盛んになり、農業・商業が発達。
　・農業技術（鉄製農具・牛耕など）の発達
　・貨幣経済の浸透（刀銭、布銭、半両銭）
・中国としての一体感→　華夷思想　のめばえ。

※世襲的な氏族社会から　→　実力本位の社会へ
農業技術の発達で、氏族に頼らなくても小家族で農業経営が可能になり、氏族の統制がゆるんだ。また、商業の発達で富裕な商人が現れ、世襲的な権威より、実力本位の傾向が強くなった。

(C) ARAKI, Shin-ichi

前２C　前１C　１C　２C

前100　100　200

ローマ帝国　中国名：大秦国　2C中頃（▲マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス）

パルティア

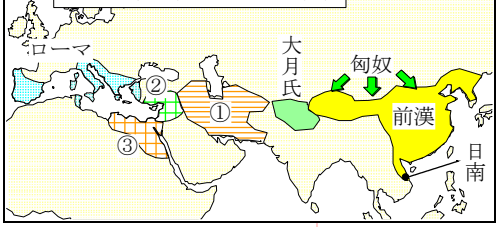
大秦国王 安敦 の 使者
海路中国へ派遣される
→ 日南郡（ベトナム中部）へ到達

匈　奴
- 西匈奴
- 東匈奴
- 北匈奴
- 南匈奴　漢に服属・定住

漢の西域進出（by▲武帝）によって匈奴は内陸貿易の利を失って衰退し、前1C中頃東西に分裂した。

北匈奴討伐
西域諸国を服属させた
西域都護
（▲班固の弟）
▲班超

前２C頃（▲武帝の時代）



①　②　③　は何？　Ans. →　No.3B上

▲張騫 を**西域**に派遣（by▲武帝）
大月氏との同盟交渉は失敗したが
タリム盆地まで漢の支配下に

冊封体制
中国に周辺国が**朝貢**し、中国皇帝が位階・印綬を授けて君臣関係を結ぶ。後漢～清末の外交政策。
例：**倭国**に**金印**を贈る『漢委奴国王』by光武帝

前100　前59　1　100

西域都護 設置

漢
◎**長安**（現：西安）
（by▲劉邦＝高祖）

新　8　23

後　漢
◎**洛陽**（ by▲光武帝 ）
25　220

→No.8A

▲武帝　前87　前147

財政難 → 打開策
- **均輸・平準**
- **専売制**（塩、鉄、酒）

結果→失敗

対外戦争の時代

匈奴を撃退
大月氏と同盟し匈奴を牽制するため
▲張騫を西域に派遣
衛氏朝鮮を滅ぼし
楽浪郡など朝鮮四郡を置く
南越を滅ぼし
ベトナム北部を支配下に置く。
日南郡など９郡
（後のチャムパー：林邑）

※▲武帝の死後、**宦官・外戚**が権力を握る

均輸：特産品を貢納させ、その物資が不足している地域に転売する物価調整法　（地理的な調整）
平準：物資が豊富な時に貯蔵し、物価が上がったら売り出す物価抑制法　（時間的な調整）

▲王莽（漢王室の外戚）
周代の制度復活を図って失敗

赤眉の乱　18　27

▲劉秀 → 光武帝
内政重視

皇帝側近と宦官・外戚との党派争いが激化
⇩
例：**党錮の禁**
儒教を奉ずる官僚知識人たち（党人）が宦官の専横に対抗しようとして失敗し公職を追放された事件。
以後、宦官の専横は激しくなり、党人は宦官にたびたび弾圧された。

嫌よ、黄巾張角さん！

184
黄巾の乱
▲張角
華北の宗教結社太平道の指導者

※各地に軍事集団が割拠
⇨ 滅亡

漢の社会
豪族の台頭：飢饉や重税などで農民が土地を売ると、**豪族**がそれを買い集めて台頭し、没落農民は奴隷や小作人になった。
郷挙里選：地方長官の推薦による官吏登用法。これによって勢力のある豪族が、官吏として国の政治に進出し始めた。

漢（前漢・後漢）の文化
漢字は隷書体に統一 → 木簡・竹簡に
製紙技術の発達 → **紙** が普及　（▲蔡倫：製紙法の改良）
前漢：**▲司馬遷**　『**史記**』（**紀伝体**の歴史書）
後漢：**▲班固**　『**漢書**』（紀伝体）→以後 紀伝体が基本形に

▲董仲舒の提案で**儒学**を官学に
（儒教による社会の安定と思想統一）
⇨
▲鄭玄：**訓詁学**が発展（経典の字句解釈を重視）→ 注釈書が作られる
経典：五経（『易経』『書経』『詩経』『礼記』『春秋』）

(C) ARAKI, Shin-ichi

2　3　4　5　6
200　300　400　500

エフタル　全盛期
ササン朝　ペルシア　▲ホスロー１世

（前1C）満州に高句麗興る

邪馬台国「親魏倭王」　ヤマト政権　倭国の使節　省略

朝鮮　楽浪郡（前漢▲武帝～魏晋が引き継ぐ）　313　高句麗　高句麗・百済・新羅・（加羅）　三国時代　6C

西域　モンゴル　鮮卑　満州　モンゴル高原　鮮卑から独立　柔然　5～6C 活発　トルコ系　突厥

この頃の　北方民族　鮮卑

匈奴系　南匈奴　羯

チベット系　氐　羌

これらの遊牧民の一部は中国内地に移住し、傭兵として活躍していた。

仏教…１世紀ころ伝来し、４世紀後半から広まる。
▲仏図澄、▲鳩摩羅什　…　西域出身の僧
華北で布教、仏典の翻訳
▲法顕　…インドで修行(No.6A)、帰国後　『仏国記』
敦煌（仏像、絵画）、雲崗、竜門（石窟、石像）
華北では庶民に広がり、江南では貴族の教養となる。

＊『斉民要術』（最古の農業書）

220

後漢　◎洛陽

三国時代

魏（華北）◎洛陽　▲曹操（魏王）　▲曹丕（皇帝：文帝）　・屯田制　・九品中正

蜀（四川）◎成都　▲劉備

呉（長江下流）◎建業　▲孫権

265　263　280

晋（西晋）◎洛陽　魏の将軍▲司馬炎　魏を滅ぼし晋を建国　占田・課田法

八王の乱（帝位を巡る一族の争い）

184　黄巾の乱　▲張角　華北の宗教結社　太平道の指導者

滅亡　※各地に軍事集団が割拠

匈奴　鮮卑

4C末　華北　五胡十六国

北朝

北魏　◎平城　→　◎洛陽　by▲孝文帝　③▲太武帝　⑥▲孝文帝　鮮卑系　拓跋氏　▲寇謙之

485
・**均田制**：農民に土地を与える
・三長制（村落制度）［隣長、里長、党長］
・**漢化政策**
鮮卑の服・言語を禁止
→内部対立
→東西に分裂

東魏　北斉　西魏　北周　府兵制始まる

五胡とは…
匈奴、鮮卑、羯、氐、羌

中国で傭兵として活動していた遊牧民（五胡）が、八王の乱をきっかけに蜂起。
→晋滅亡→五胡十六国時代へ

▲司馬睿（晋の一族）晋を再興　東晋　◎建康（南京）　▲劉裕（東晋の武将）

宋　斉　梁　陳

南朝

江南の開発
・山中での自給生活
・大荘園の自給的経営
・華北から人口流入
『桃花源記』▲陶潜

No.7B→

魏晋南北朝の文化

この時代は多民族動乱の時代で、国家統制がやや緩くなったため、規範に縛られない自由で多様な文化が花開いた。　(仏教は上記参照)

道教が成立…　神仙思想　＋　道家の説
▲寇謙之…教団を作って布教。北魏▲太武帝の信任

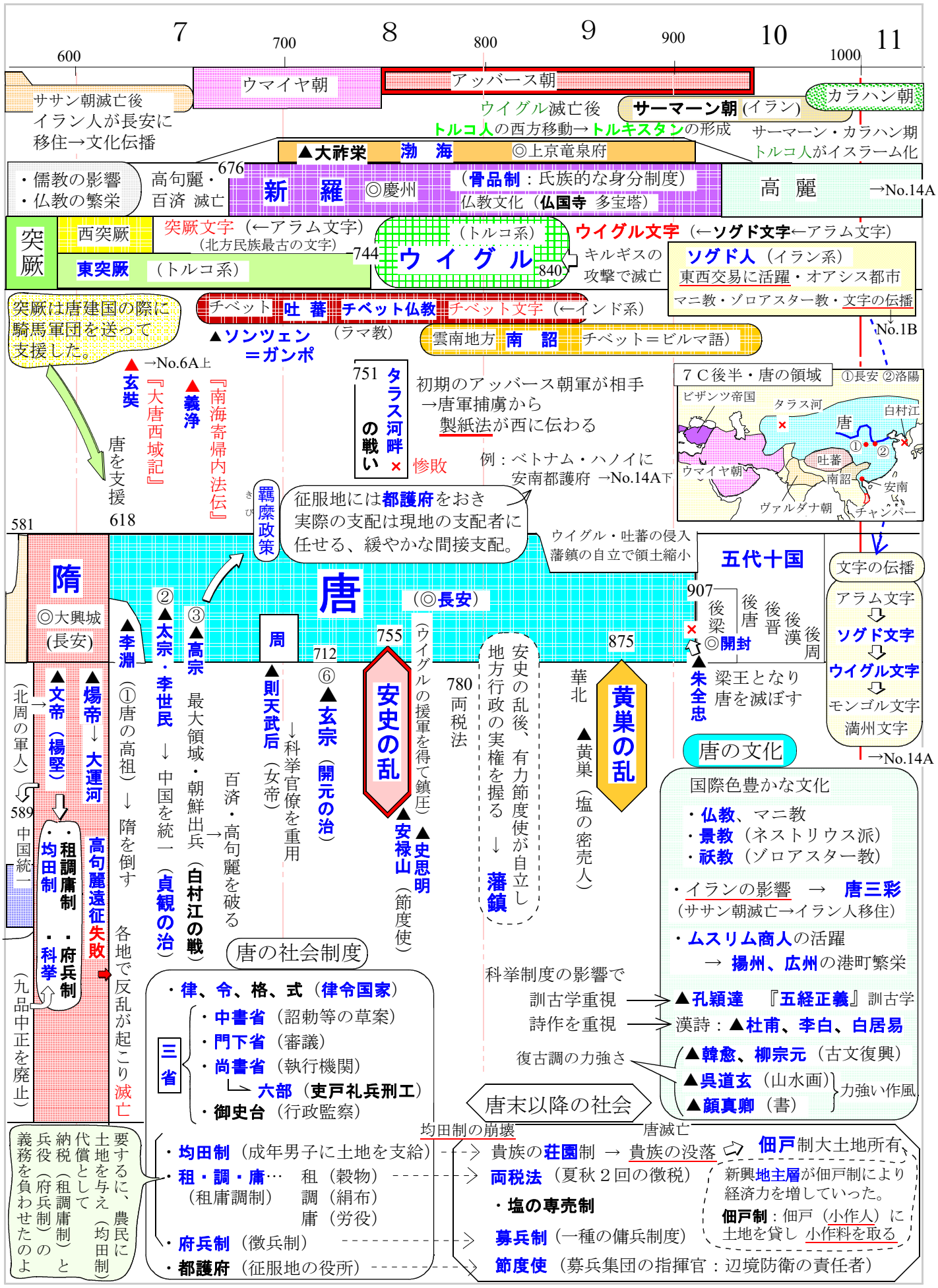
六朝文化
清談…世俗を離れた哲学（老荘思想など）が人気。（＊竹林の七賢）
詩：▲**陶潜**（陶淵明）　▲謝霊雲
『**文選**』（四六駢儷体：by 梁の▲**照明太子**）
絵画：▲**顧愷之**　『**女史箴図**』　書：▲**王羲之**

魏晋南北朝の社会

九品中正…中央派遣の**中正官**が、地方の人材を９等に分けて（**魏時代**～）中央に推薦し、官吏として登用する官吏登用制度。
門閥貴族が高級官吏を独占し家柄の固定化が進んだ。

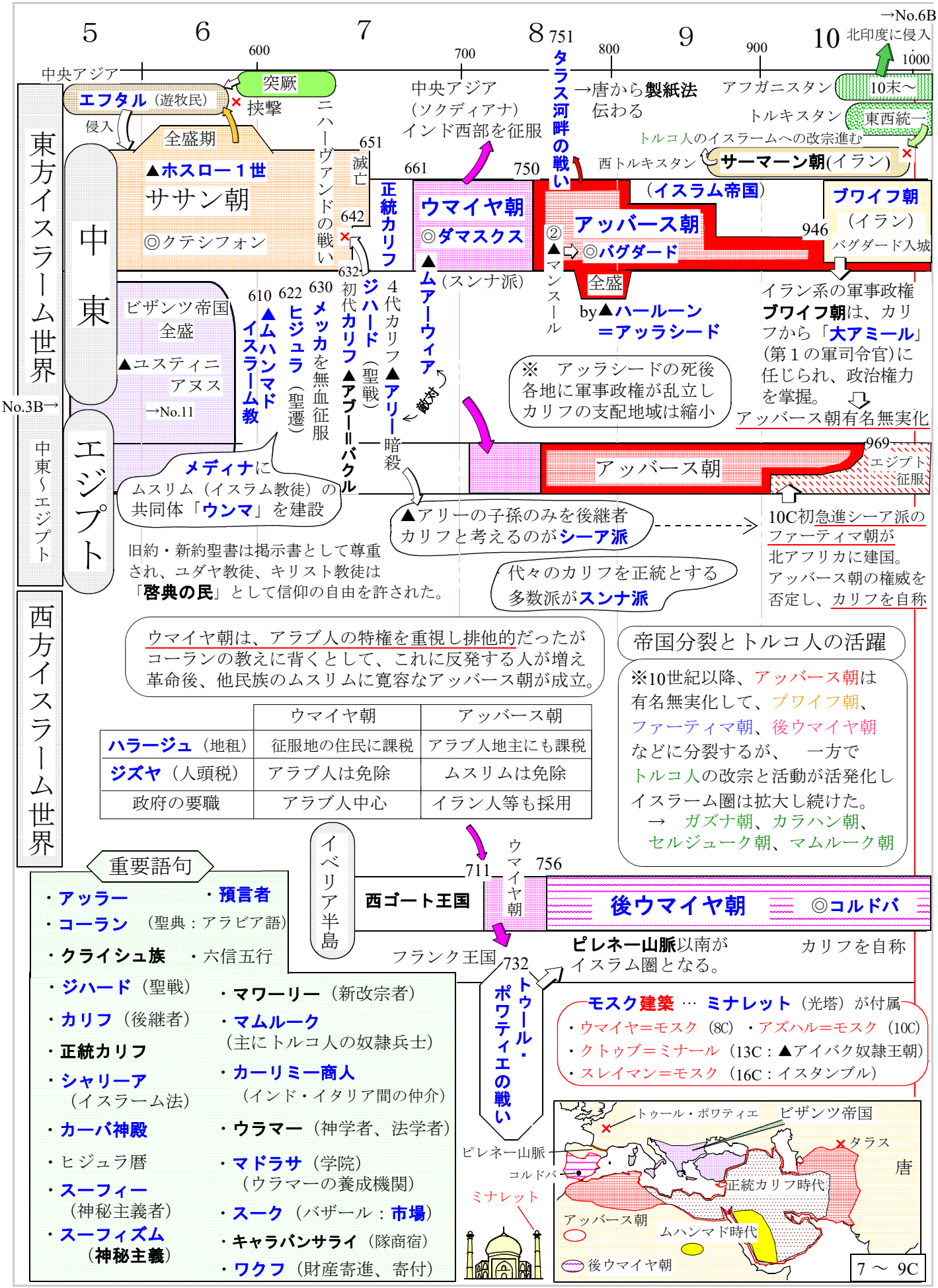
土地制度
魏　→　**屯田制**（官有地を農民に耕作させる）
晋　→　**占田・課田法**（詳細不明：北魏の均田制に繋がる）
北魏→　**均田制**（農民に土地を与える→隋唐の均田制へ）

(C) ARAKI, Shin-ichi



(C) ARAKI, Shin-ichi

No.9　イスラーム世界の形成Ａ

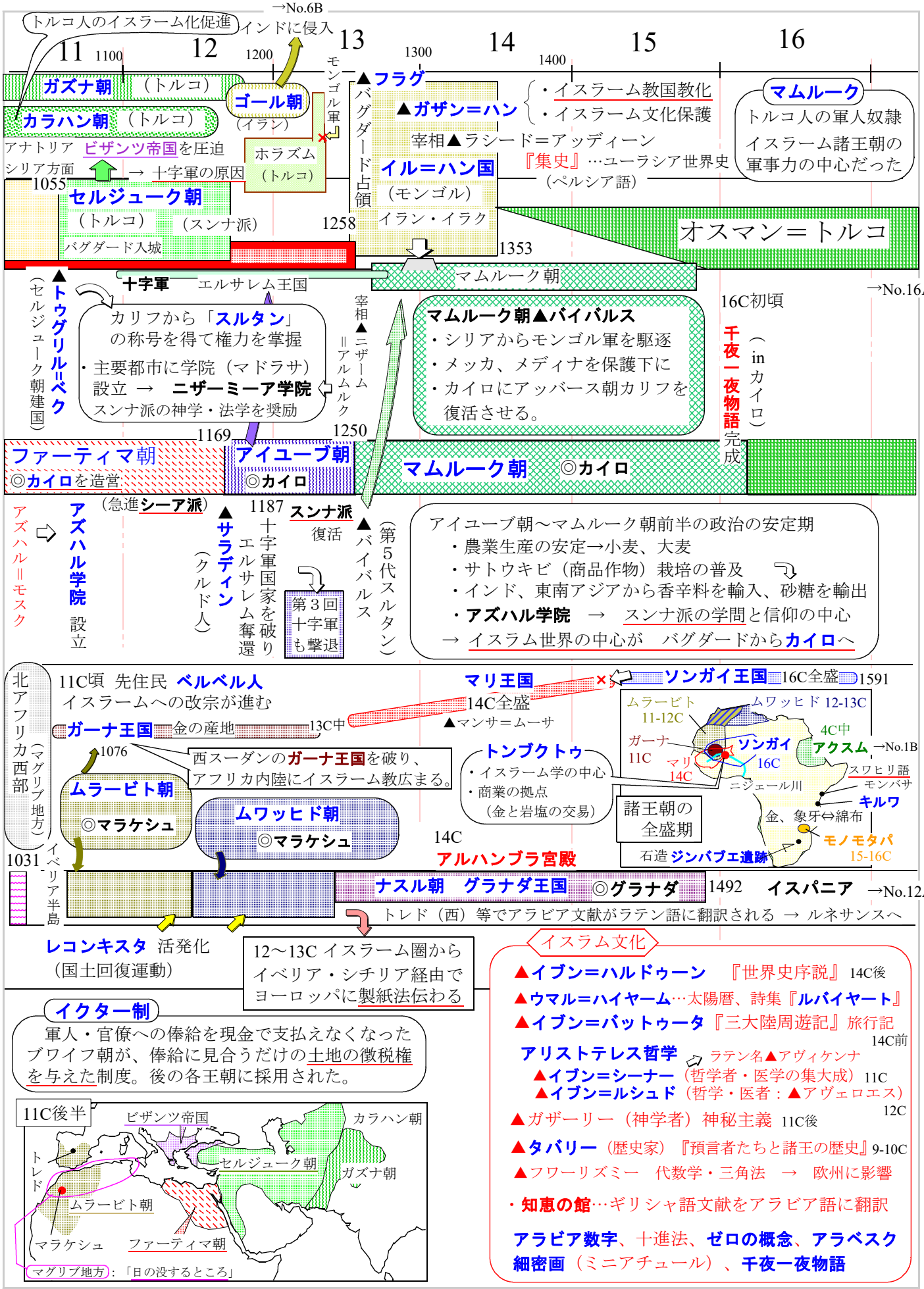


	ウマイヤ朝	アッバース朝
ハラージュ（地租）	征服地の住民に課税	アラブ人地主にも課税
ジズヤ（人頭税）	アラブ人は免除	ムスリムは免除
政府の要職	アラブ人中心	イラン人等も採用

重要語句

- アッラー
- 預言者
- コーラン（聖典：アラビア語）
- クライシュ族
- 六信五行
- ジハード（聖戦）
- カリフ（後継者）
- 正統カリフ
- シャリーア（イスラーム法）
- カーバ神殿
- ヒジュラ暦
- スーフィー（神秘主義者）
- スーフィズム（神秘主義）
- マワーリー（新改宗者）
- マムルーク（主にトルコ人の奴隷兵士）
- カーリミー商人（インド・イタリア間の仲介）
- ウラマー（神学者、法学者）
- マドラサ（学院）（ウラマーの養成機関）
- スーク（バザール：市場）
- キャラバンサライ（隊商宿）
- ワクフ（財産寄進、寄付）

(C) ARAKI, Shin-ichi



(C) ARAKI, Shin-ichi